

平均の求め方

いくつかの数量を，同じ大きさになるようにならしたものを，
それらの数量の^{へいきん}平均といいます。

平均は，次のようにして求めます。

$$\text{平均} = \text{合計} \div \text{個数}$$

〔例〕 3 個のりんごの重さをはかったら，340g，323g，327gでした。
1 個平均何g でしょう。

りんごの重さの合計は，

$$340 + 323 + 327 = 990$$

なので，平均は，

$$990 \div 3 = 330$$

で，330g となる。

平均を使った見積もりの求め方

いくつかの数量の平均から、合計や合計の見積もりを求めることができます。

〔例〕ある食堂の一日に使うたまごの数を調べたら、次のようでした。この食堂が 30 日間に使うたまごの数の見積もりを求めてみましょう。

曜日	月	火	水	木	金	土	日
たまごの数	58	67	55	71	58	66	31

表から、1 日に使うたまごの数の平均を求めると、

$$(58+67+55+71+58+66+31) \div 7 = 58$$

で、58 個なので、30 日間に使うたまごの数は、

$$58 \times 30 = 1740$$

で、1740 個と考えられる。

2つ以上のグループからの平均の求め方

2つ以上のグループの平均と個数から、全体の平均を求めることができます。

〔例〕 A班とB班の子どもたちが、折り紙でつるを折りました。

A班の人数は8人で、1人平均15わ折りました。

B班の人数は、12人で、1人平均20わ折りました。

A班とB班を合わせた全体では、1人平均何わのつるを折ったの

	人数	1人平均 の個数
A班	8人	15わ
B班	12人	20わ

でしょう。

全体で折ったつるの合計の数を求めて、
それを全体の人数でわって平均を求める。

全体の合計は、 $8 \times 15 + 12 \times 20 = 360$ で、360わとなる。

全体の人数は $8 + 12 = 20$ で、20人なので、全体の平均は、
 $360 \div 20 = 18$ で、1人平均18わのつるを折ったことになる。

平均の求め方のくふう

次のようなくふうをすることによって、平均の求め方をかんたんにすることができます。

〔例〕 メロン5個の重さは次の通りです。

メロンの重さの平均を求めてみましょう。

514g 508g 501g 522g 515g

どれも500gより大きいことから、500gに目をつけて、
残りの 14g 8g 1g 22g 15g をならして平均を求める。

$$(14 + 8 + 1 + 22 + 15) \div 5 = 12$$

で、平均は12なので、

$$500 + 12 = 512$$

で、メロンの重さの平均は512gとなる。

合計の求め方

平均と個数から、合計を求めることができます。合計は、次のようにして求めます。

$$\text{合計} = \text{平均} \times \text{個数}$$

〔例〕 たかし君の家では、去年は1か月平均28kgの米を食べたそうです。

たかし君の家では、去年1年間で何kgの米を食べたのでしょうか。

1年は12か月なので、1年間の合計は

$$28 \times 12 = 336$$

336kgの米を食べたことになる。

個数の求め方

平均と合計から、個数を求めることができます。
個数は、次のようにして求めます。

$$\text{個数} = \text{合計} \div \text{平均}$$

〔例〕 ふくろにみかんが入っていて、みかんの重さの合計は928g
です。

みかん1個の平均の重さが32gだとすると、みかんは何個あ
るでしょう。

個数＝合計÷平均で求めることができるので、

$$928 \div 32 = 29$$

で、みかんは29個とわかる。